

見出し

次は…英語

まなび場 天声人語

「天声人語」を題材に、学びを深めませんか。今回は、読解力アップにも役立つ「見出し作り」です。見出しを考えることは、文章が訴えたいことを短い言葉で表現する訓練にぴったりです。読者のみなさんの投稿から選ばれた優秀作を紹介します。

今月の優秀作

君の声を聴かせて
既読スルーで心もスルー
イルカも催促「お返事は？」
返事を待つ者たち
今日もあなたは元気でイルカしら

(隠岐絵里さん 39 大阪府)

(高山千代さん 65 東京都)

(堀口直子さん 65 神奈川県)

(須賀康太さん 16 東京都)

(芦原芳子さん 55 京都府)



コロナ禍で気軽に人と会えない。せめてもとメッセージを送ったものの「既読スルー」に。そんな方もいらっしゃるかもしれません。

〈君の声を聴かせて〉。隠岐絵里さんは、いまの日常への思いを見出しに込めてくれました。

非対面・非接触が「善」の世の中で、互いに理解できぬまま会話が終わることも多い。返事を催促するイルカの心意気を見習い、勇気をもって「君の声を聴かせて」の一言を私も伝えたい。そう理由に書かれています。胸の内をひとことメッセージにしたセンスが光ります。

天声人語では「既読スルー」に心がモヤつく人間やイルカの様子がつづられています。高山千代さんの「既読スルーで心もスルー」からはそのむなしさが、堀口直子さんの「イルカも催促「お返事は？」」や須賀康太さんの「返事を待つ者たち」からは焦りも上手に伝わってきます。

ただ、そっと待つことも大切なのかもしれません。芦原芳子さんの「今日もあなたは元気でイルカしら」からは、相手を思いやる気持ちが伝わってきました。さりげない遊び心も素敵です。

社会部などで記者生活25年。いまは紙面とデジタルでの最適な発信をめざすコンテンツ編成本部長。50歳

投稿Voice

◆要点をとらえる力、それを表現する力、日本中の読者の方といっしょに鍛えたいと思いました。三人の幼い子どもが起きてくるまでの貴重な朝活にします！(大阪府・30代)【係から】幅広い年代から2821件の応募がありました。埼玉県立新座総合技術高校など20校からは学年・クラス単位で投稿していただきました。

イルカも心沈む 一方通行の言葉 文章のテーマにとどまらずに

編集者の見出しワンポイント

そもそも見出しとは？ 私たち編集者は新聞を作る際、記事のテーマを示すだけでなく、文章が訴えたいことを端的かつ印象的に表現しようと、毎日頭をひねっています。今回は「シロイルカも既読スルーでモヤモヤ」という研究がテーマです。注目したのは「言葉を交わすことによる安心感」という人間との共通点です。優秀作の「既読スルーで心もスルー」は、文意と、スルーされる不安感の両方をうまく盛り込んでいます。助詞の「で」「は」にすると、よりわかりやすい見出しになるでしょう。

(矢島由利子)

天声人語

せっかくメッセージを送ったのに、読むだけ読んで相手が返信をくれない「既読スルー」。そのたび返事が来るか来ないか気になって、何度もスマホの画面をのぞいてしまう▼既読スルーに心がモヤつくのは人間だけかと思いきや、シロイルカも同じらしい。最近の研究で、仲間と鳴き交わす際、スルーされると黙っておらず、返事を催促していることがわかった▼三重大学の森阪匡通・准教授(44)らの研究。水族館の水槽に録音器をつけ、鳴き方を調べた。仲間「ギー」と声をかけ、1秒ほど待っても返事がないと、再び「ギー」と畳みかける行動が高い確率で観測された。「返事ぐらいして」と言わんばかりの催促ではないか▼「イルカやサル、クジラなど社会性を持ち、音声を多用する動物は、鳴き交わしが成立しないと安心感を失います」と森阪さん。シロイルカの世界にも存在した「既読スルー」を解明したその論文は、哺乳類学の専門誌に掲載された▼英国の進化人類学者ロビン・ダンパーによると、人と人の会話は、サル同士の毛づくろいに近い機能を持つ。あなたに関心がある、良好な関係を持ちたいと伝える、いわば遠隔の毛づくろい。会話の中心はともかく、言葉を交わすのが大切なのだという▼森阪さんの研究室で、シロイルカの声を聞いた。キッキキという高音からドアがきしむような音まで、やり取りは音域が広く、緩急も自在。シロイルカの会話の豊かさにならない。「既読スルー」を少し減らそうかな。

2021・6・7

見出しにチャレンジ
次のお題は7月11日付



締め切り
8月8日

7月11日付の天声人語を読み、15字以内の見出しと、見出しを考えた理由(100~200字)を投稿してください。理由を含めて優秀作を選考します。優秀作は紙面で紹介し、図書カード3千円分を差し上げます。応募は<http://t.asahi.com/manabibatenjin>へ。QRコードからも応募できます。郵送の場合、住所・氏名・年齢(在学中の場合は学年も)を記入の上、〒104・8011 朝日新聞コンテンツ編成本部

「まなび場天声人語」係へ。締め切りは8月8日(消印有効)。投稿者の中から抽選で20人に、新聞を使った学びに役立つグッズを差し上げます。お問い合わせはmanabibatenjin@asahi.comへ。

お題の天声人語
8月2日に
再掲します